

1、グループ討議について

【①いじめ問題】

所属 P 10 T 2

① グループ討議に参加しての感想はいかがでしたか

○思っていた内容どおりだった 内容がずれていた



○内容について

よかった 5 4 3 2 1 あまり良くなかった



感想

- ・ いじめについて、親としての覚悟が必要であると再認識できた。
- ・ いじめは皆の問題であるというまとめは良かった。
- ・ いろいろと意見が出て、気づかされるが多かった。
- ・ 学校のような大きな集団の中で起きている様々な問題にスポットを当てる機会が増えることはいい。
- ・ テーマをいじている加害者に絞っていたのが良かった。
- ・ いじめの加害者の保護者の視点を今まであまり意識していなかったもので、今回、自分自身を振り返ることができ良かった。
- ・ 他の保護者さんの意見を聞くことができ、大変参考になった。
- ・ グループ討議で色々な意見交換ができ、自分自身を見つめなおすきっかけとなった。
- ・ いつもと違う目線の加害者の親になった時というテーマで話し合いをした事が良かった。
- ・ 重たいテーマだと予想していたが、色々な意見を聴くことで大切なことを気付かせていただいたように感じた。
- ・ 話しやすい雰囲気グループ討議ができたのは良かった。
- ・ グループ討議の内容、方法等が良く練られていて、よい協議ができた。自分自身の新たな発見もあった。
- ・ 各グループの発表に対するコメントはまとめが必要と感じた。
- ・ 最後のファシリテーターのコメントを配布してほしい。

【②地域力】

所属 P 10 T 2

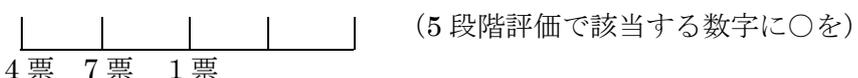
① グループ討議に参加しての感想はいかがでしたか

○思っていた内容どおりだった 内容がずれていた



○内容について

よかった 5 4 3 2 1 あまり良くなかった



感想

- ・ 討議時間が短く、考えがまとまらない時があった。
- ・ いろいろな意見を聴くことができたり、はじめて会った方と話ができて楽しかった。

- ・ グループ内で時間がオーバーするほど意見が活発に出て良かった。
- ・ 時間が足りなかった。もう少し深く話し合っ、ある程度の道筋が見たかった。
- ・ よく考えられた設定や進行であり、参考になった。
- ・ みなさんが同じ方向を向いていて安心した。一人ひとりの保護者にも、こういった方向性に対して学習し、共感してもらえば地域は変わると思う。
- ・ 日頃お会いしない方々との意見交換や情報交換、考え方など聞ける機会となった。
- ・ 色々な地域での取り組みをもっと聞きたかった。あと2時間位欲しいかなあ。
- ・ グループ討議の“ねらい”が当初、つかめないまま、進んでしまった。冒頭にそのあたりの説明が丁寧であれば、より良いものになったと思う。
- ・ 意見は活発に出たけれど、“地域の担い手”という事に繋げるのが難しかった。繋がらなかった。
- ・ 話し合いの内容は有意義であったが、“地域の担い手になる”というのは、どうゆうことなのかについても考えてみる事が必要だと思った。

2、全体会について

感想

- ・ 県PTA協議会の活動が各単Pに広がっていくように啓発が必要。
- ・ 音田課長の講評が大変参考になった。
- ・ 県教育長さんの話を聞くことができ、参考になった。
- ・ 意見も出て、議論が深まって良かった。
- ・ 他のグループ討議、子どもサミットの報告が聞けて良かった。(複数)
- ・ それぞれのテーマがどのように話し合われたかの発表で学ぶことができた。
- ・ 各グループ討議はうまくまとめてあり分かりやすかった。音田課長の総評もわかりやすかった。
- ・ グループ①のいじめ問題の発表で、問題の解決はケースバイケースで「正解」は一つではないと感じた。学校の対応が充分でない事例が全国で多発している。自分の子どもの通う学校、保護者間で、こゆう事を設定した討議が必要と感じた。
- ・ グループ①のいじめ問題の仮想体験を子どもたちにさせたい。
- ・ グループ①のいじめ問題の報告では、事例や意見を聴くことができ、参考になった
- ・ いじめをしない子どもに育てる親の責任の法律があるとは知らなかった。
- ・ グループ②の発表の中で“子どもの力を信じる”という言葉が印象的だった。
- ・ 他のグループ討議のワークシートがあると良かった。
- ・ 子どもサミットの発表が素晴らしかった。(多数)
- ・ 子どもサミットの発表が良かった。子どもたちの素直な意見が聞けて“よく考えているなあ”と感じた。
- ・ 子どもサミットに取り組んだ子どもたちの力強い発表に勇気づけられる思いだった。

その他の意見

- ・ 代理で参加させてもらいましたが、勉強になりました。
- ・ 準備がきちんとされており、大変有意義な会だった。

取り上げて欲しいテーマ

- ・ コミュニケーション能力の育成
- ・ 不登校

平成29年度教育懇談会報告 グループ討議①

いじめ問題「あなたの子どもがいじめています。さあどうしますか？」

1 いじめ問題について

人権教育課より、いじめ防止対策推進法についての説明

- (1) いじめ対策推進のポイントとして
 - 未然防止、早期発見、早期対応
- (2) 保護者の責任として
 - ・いじめをしないように指導する
 - ・いじめを受けたら適切に保護する
 - ・ 防止措置に協力する

2 人権プログラムについて

- (1) 本日の人権プログラムについて説明

傍観者はどうしたらよいか、被害者はどうしたらよいかは、これまで行ってきた。

新たに、加害者（の親）はどうしたらよいかという視点で、このプログラムを作成中。

[作業の流れ]

- ① やってはいけないだろうという行動を、ピンクの付箋に書いて張り出す。
 - ② ①を踏まえて、どういう行動をとればよいかを、黄色の付箋に書いて張り出す。
 - ③ ②の行動は、だれに対して行うものかを整理して、行動についての重みづけ（行動の順ではない）
 - ④ 各般の討議結果をお互いに見て回りながら、これはいいというものについて、シールを張る。
 - ⑤ 各般の討議結果について、発表
- (2) 各般に分かれて、作業の流れにそって実施
 - ※各班のまとめ状況は、添付参考
 - (3) 各班から出た意見の内、重要なポイント（各班の取りまとめより）
 - ア やってはいけない行動
 - ・知らないふりをする
 - ・いじめられる側にも問題があるという発想で行動する。
 - ・事実を十分に確認せずに、人の話を鵜呑みにする。
 - イ こうしたら良いのではという行動
 - ・十分に子供の話を聞く
 - ・冷静に対応する
 - ・いじめであれば謝罪する。
 - (4) ファシリテーターの取りまとめ
 - 加害者の親として、謝罪をする覚悟、正しい方向に導く覚悟、家庭を振り返る覚悟が必要。多干渉も、無関心もよろしくない。

平成29年度教育懇談会報告 グループ討議②

将来地域の担い手になる大人に育てるために大切なこと～体験・大人・地域の力～

1 基調提案 県教委 小中学校課 森原先生より現状説明並びに基調提案

(1) こどもを取り巻く環境の変化

- ・ 昔は家庭・学校・地域が支える力が強く相互連携が図られていたが現在は希薄になりこどもを取り巻く環境が変化している。

(2) 今後の対応策

- ・ 家庭・学校・地域が教育の当事者としての意識を共有し社会総掛かりでこどもに係わっていく
- ・ 巣立って行った若者たちが「志を果たしに」再び地域に還り、ふるさとから自己表現や地域貢献を果たせる地域作り

2 グループ討議

(1) 自分たちがこどもの頃の体験を思い出してみよう。

- ・ 川、山、海、田んぼなどでの豊かな自然体験
- ・ 地域のお祭りに参加 缶蹴り、けいどろ等の外遊び

(2) 今のこどもたちの体験は？

【昔に比べ、同等やそれ以上に出来ていること、出来ていないこと】

《出来ていること》

- ・ PC、スマホ、ゲーム機等を使っての遊び ・ 勉強や習い事
- ・ 子ども会活動 ・ 職場体験

《出来ていないこと》

- ・ 農作業の手伝い ・ 川、山、海等での遊び
- ・ 自転車での移動（校則により行動範囲に制限） ・ 友達の家を外泊（主に中学校から）

(3) こんな体験をさせてみたい。できたらいいな！

- ・ 豊かな自然とふれあえる体験、遊び ・ こどもたちだけで(あるいは1人で)旅に出る
- ・ スポーツを通じた他地区との交流 ・ 親子で地域行事に参加
- ・ 地域の祭やイベントに参画

(4) 保護者として出来そうなこと・しなくちゃいけないこと。

① 保護者の力（保護者として出来そうなこと、心がけたい事）

- ・ 親が率先して地域行事に参加する
- ・ 親の都合でこどもに制限をかけない
- ・ こどもを信じ、経験を促す
- ・ 保護者同士のつながりを強くもつ
- ・ 保護者のコミュニケーション能力を育てる

② 地域の力（地域としての取り組みに期待したい事）

- ・ こどもが参加、参画出来る機会の創出
- ・ 異年齢のこどもたちが集える体験事業(キャンプ、外遊び等)
- ・ 公民館を起点とした事業や遊び場の提供

③ 教育行政（教育委員会などの行政に期待したい事）

- ・ 地域の色を取り入れた学習の充実
- ・ 保護者が学べる機会の提供
- ・ 教職員が地域行事に参加出来るシステム作り